



レンコンの褐斑病やイネネクイハムシの発生に注意しましょう

本年は6月に台風が相次いで発生し、植え付けたばかりの種レンコンが流されるなど被害が発生しました。台風の後は褐斑病が多発生することがありますので注意してください。

今後は、適切な肥培管理を行うとともに、褐斑病やイネネクイハムシなど各種病害虫の発生にも十分注意して、適切な防除を実施して下さい。なお、防除の際は下記を参考にして防除を徹底して下さい。



褐斑病

病原菌のカビは被害茎葉などで越冬し、4月下旬頃から孢子が飛散し始めます。発病には高温多湿の条件が適し、露地栽培では早いと6月中旬頃から発病が認められることもあります。主に、曇雨天の続いた後や台風など強い風雨があると広域で大発生します。病徴は、はじめ葉に暗褐色の小斑点ができ、後にやや角張った褐色の病斑に拡大します。古くなると内部に輪紋を生じ、中央には淡褐色の中心部ができ、発病が激しいと葉が黄化して枯死します。

<防除のポイント>

- 1) 発病を認めたら、薬剤防除を行いましょう。散布する場合は、レンコン田全面に（中央にまで）ムラなく散布するよう丁寧に行います。
- 2) 被害残渣は伝染源になりますので、できるだけ土中に埋設するなど適切に処分してください。

表1 レンコン 褐斑病の防除薬剤 (令和5年6月12日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
トップジンM水和剤	1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	1
トップジンM粉剤DL	3~4kg/10a	収穫前日まで / 3回以内	

注) 水和剤または粉剤DLの使用回数は、合わせて3回以内です。また、分類欄には、FRACコードを記載しました。

イネネクイハムシ

イネネクイハムシの幼虫は、畦畔やレンコン田などの土の中で越冬し、レンコンの根が伸び始める5月下旬頃から発根部に集まって根を食害します。その後、6月上旬~下旬頃にマユを作って蛹になり、約一週間で成虫になるため、6月下旬~7月中旬頃にかけて成虫が現れます。この成虫がレンコンの浮葉を表から食害して小さな穴をあけ、しばらくすると浮葉の裏に産卵します。卵は約一週間でふ化し、水中に落下した幼虫がレンコンの根を食害します。幼虫による根の食害が激しいと、浮葉や立葉が減少し著しい生育不良となり、収量も減少します。また、レンコンに小さな穴をあけるため商品価値が低下する他、腐敗病に侵されやすくなります。

<防除のポイント>

- 1) 周辺の雑草等にも産卵、生息しますので、レンコン田の周辺は常に除草しておきます。
- 2) 周囲に床立ち圃場がある場合には、特に注意して観察し、発生に応じて防除を徹底しましょう。
- 3) 薬剤防除は、成虫や新幼虫が発生してくる6月下旬~7月中旬頃に行います。なお、成虫や新幼虫の発生する期間がダラダラと長期にわたるため、1回の防除で被害が抑えられない場合は、7月中旬頃までに2回目の追加防除が必要となります。
- 4) 農薬散布の際は、農薬ラベルに記載されている注意事項を十分確認し、レンコン田が湛水状態のときにムラなく均一に散布して、散布後7日間は落水、かけ流しをしないように徹底します。また、降雨等により、水があふれると予想される場合には、散布を控えます。

表2 レンコン イネネクイハムシの防除薬剤 (令和5年6月12日現在)

薬剤名	使用量	使用時期 / 使用回数	分類
トレボン粒剤	3kg/10a	収穫14日前まで / 3回以内	3A

注) 分類欄には、IRACコードを記載しました。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。